

ほうでえ～

ありゃ～のう

周防大島町の話題

目標を持ち自分らしく生きる

5月27日、大島文化センターにおいて、大島郡医師会主催による大島医学会の中で講演会が開催されました。「病気だけど、病人じゃない！〜がん体験から人生を考える〜」と題し、嶋元医院院長の嶋元徹先生が自身の体験をもとに、自分らしく生きることについて講演されました。

嶋元先生は、がんになって、「自分は何を残せるのか、自分の役割はなんだろうか」と考え、体験を話すことで、1人でもがんにならないこと、早期発見に繋げることが、がんになった人に元気を与えることが自分の役割ではないかと語られました。

そして、目標を持つことが生きる力になり前に進めることや1日1日の大切さを伝えられました。

終わりに、がんになって多くの方に支えられて頑張ってきたという感謝と、「これからも頑張って生きていく」と話を締めくくられました。

◀ご自身の体験を語る嶋元先生。「みなさんも必ず健診を受けてください！」



地域おこし協力隊員が着任しました

新しい地域おこし協力隊員が決まり、5月1日、大島庁舎において委嘱状の交付式が行われました。

着任したのは、富山県から来られた新井謙太郎さんで、周防大島観光協会において、周防大島町に根ざすスポーツイベントや、海や山など自然環境を活用したアウトドアイベントの企画・運営など、主にスポーツ・アウトドア関連の業務に取り組まれます。

新井さんは、「キャンペーンイベントを中心として、音楽イベントやアートに触れる機会を増やしたい。日本が持っている美の感性や文化を外国にも発信できれば」と意気込みを語られました。



▶椎木町長から委嘱状を受け取る新井さん

みかん作りを学ぶ



5月9日、みかん産地に新たな担い手を育成するために開催されている「周防大島みかんいきいき営農塾」第17期の開講式が、安下庄の柑きつ振興センターで行われました。

受講生は50名で、毎月1回の講義で、みかん作りの基礎となる肥料、薬剤防除やせん定の方法などを1年かけて学びます。

▲開講式であいさつする塾長の椎木町長